

# 難治性の頸腕上背部痛の症例から

## [症例1患者:鳥〇裕〇(41歳)]

### 発症までの経過と主訴:

最初のきっかけは、自転車に乗っているときに左頸筋がピキンとなってからしだいに痛みが強くなってきたことがあった。その時、整形外科で渡された湿布を貼っていたが痛みがさらにひどくなり、ほとんど頸を動かすこともできない状態であった。

その後、いろいろな治療を受け長くかかったが、ある日、痛みがなくなっていたとのことであった。

今回は、2ヶ月前から、左頸腕上背部に以前と同じように痛みが発症し、しだいに耐え難い激痛になってきている。左の第2、3指にしびれ感がある。寝返りや日常的な動作ができない。カイロプラクティックの治療を受けていたが好転しないため、紹介で来院(H16.11)。

### 初診時の診察所見:

左右の上腕での血圧は、105-66mmHg、113-64mmHg、脈は74で整。頭を支えることが辛そうで頭が垂れた姿勢(kyphotic)に、頸部の歪曲を代償するように全身的な姿勢の歪曲が見られる。上部頸椎から肩甲骨上角にいたる部位が腫れたように筋緊張。左前胸部にひきつれ感と圧痛。痛みと頸部の運動制限の他には、特に神経学的な異常はなし。身体呼吸の触診で、心尖と横隔膜の付近であろうか、下方の左胸内部で異質な活動性が触知された。それに連なるように脊柱前側、傍側にスジ状の異質な触感が上方に走行している。解剖学的には交感神経幹をイメージしてしまう長い組織の活動性の低下のようである。

### 既往歴:

幼少の時、心臓手術(病名不明)。  
5年前に転倒し、一時的に意識消失したことがある。

### 治療の経過と所見:

身体呼吸療法のアプローチは、深くゆったりとした呼吸が誘導できるため、大脳皮質の興奮を安定させ、痛みの軽減に効果的であった。頸の可動性も改善し、睡眠もとれるようになった。痛みの部位も頸胸部から上部胸椎の側方に限局されてきた。数週間ほど経過し、激痛はなくなっていたが、始終、左上部胸椎側方の痛みが気になり心痛に変わってきているように思われた。身体呼吸による触診では、頸胸部の脊柱管に閉塞感が感じられていた。また、時折、最初に感じた左胸下方の重苦しい触感が出ていることがあった。これまでの生活状況を尋ねたところ、何年もの間、肉親の看病と夜の仕事でかなり身体疲労が蓄積された状況であった。しかも、溺愛している愛犬が危篤状態にあり、うちに悲嘆さを押し隠しているようでもあった。